

令和 7 年 1 月 9 日市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、令和 7 年初めての市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。皆さん、明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。第 1 回目の発表ということで、清水庁舎と静岡庁舎の耐震性の評価の最終報告になります。そして、今後の対応ですね、これについて説明をさせていただきます。この清水庁舎については、2012 年度から解析をしていましたので、これで 13 年目になるということで、もう結論を出さないといけないということで、今回、最終報告という形で結論を出したということになります。発表の経緯にありますように、2024 年、去年の 4 月 30 日に市が解析した結果、第 3 段階目の診断というのをやりましたが、この解析結果を発表しました。清水庁舎については、本震直後の崩壊は免れるため、地震直後の退避は可能であるが、地震後に変形が残り、その後の余震によって大きな被害を受けて大破に至り、安全確保は困難になる可能性があるというものです。静岡庁舎については細かいのは省略して、建物全体としては一定の耐震性能を有しているというものでした。

ただ、これについては市が解析をしていますので、何かごまかしているのではないかと。12 年も 13 年もやっていますので、どうしても何かごまかしているのではないかとという声もないわけではありましたが、何か隠しているのではないかとという声も、少数ですけどありましたので、これ、やはり第三者の評価をしっかりと受けるというのが大事ではないかと考えました。この第三者の評価として、一般財団法人日本建築センターというところが、耐震評定委員会というのを持っていて、そこで第三者評価をしています。ここに第三者評価を申請して、12 月 20 日にその結果が出てきました。耐震評定と一般的には言っています。今日は、この市がやった 3 段階目の診断結果、これは去年の 4 月 30 日に発表したものと、今回出てきた第三者評価、耐震評価の結果の両方を踏まえて、両庁舎がどういう耐震性を持っているかについての最終報告を行うものです。そして、それを踏まえて今後の検討の進め方についてもご説明いたします。経緯は、1 ページ目の下に書いておるとおり、第 1 段階目の診断を 2012 年度、第 2 段階目の診断を 2012 年度にやりましたが、その後詳細な解析を行っていませんでした。第 3 段階目の診断は 1 昨年になりますね。4 月に私が市長に就任しましたので、もう一度改めてこの問題についてしっかり検討しておこうと

いうことで解析を行いました。

次のページですけれども、もう一つは、静岡庁舎については 2017 年度に南海トラフ沿いの巨大地震の長周期波に対して弱いんじゃないかということで、国土交通省から技術的助言が出ていましたが、それについて調査をする必要があるということが判明しましたけれども、その状態で特に詳細な検討はしておりませんでした。今回、清水庁舎の耐震性について詳細な検討をしましたので、併せて静岡庁舎についても時刻歴応答解析と言っていますけれども、動的な解析を行うというものです。

その下に、両庁舎の耐震性についての検討、これまでの経緯というのがあります。これは、一応ここにずっと書いていますけれども、多くの方がご存じだと思いますので、詳細には省略をします。耐震性の評価は、2012 年に第 1 段階目の診断、そして 2012 年にもう一つ、第 2 段階目の診断をやったんですが、その結果を踏まえて 2017 年の 2 月に清水庁舎の静岡駅(注:清水駅)東口公園への移転・新築方針というのを発表しました。

ところが、桜ヶ丘病院が東口に移るということで移転場所がなくなったので、2023 年の 2 月ですね、これは私が市長になる直前ですけれども、将来の清水駅東口移転への可能性を考慮に入れて、清水庁舎については現庁舎の現地での 20 年程度の使用を基軸とした改修方針というのを発表しました。これは、将来清水駅周辺に移る可能性を踏まえて、本格的な改修をするのではなくて、20 年程度使用できるような改修をしようというものでした。ただ、この時点で清水庁舎の改修については、市議会で 7 年間も議論が続けられていて、そして裁判にもなっていました。したがって、ちゃんとした検討を、ちゃんとしたというのは、詳細な検討をした方がいいだろうということで、私が市長に 2023 年 4 月に就任をして、詳細な検討をするということにいたしました。

その 23 年度に詳細な検討を行ったということですが、その後、先ほど申しましたように、やはり市の調査だけではなくて、第三者評価もやる必要があるということでやりました。静岡庁舎については省略いたします。

第三者評価というのが出ましたので、どういう状況かということをご説明します。まず、先ほど申しました第三者評価の耐震評価というのが、どういうものかということをもう少し詳しくご説明すると、既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会に属する建築団体が設置する耐震評価委員会というのがあります。これは、大学教授や構造一級建築士等の専門家で構成されています。ここに耐震評価を申請すると、耐震方法について詳細に検討して助言をして、誰かがやった診断、あるいは改修計画について妥当性を検討して、評定書ということで発行してくれるものです。

一般には、この評定委員会の評定結果というのは非常に、より厳しい条件を設定

して妥当性を評価するというものです。評価については、これが正しいというものではなくて、モデル化する時にいろいろな、どの程度にしようかということはいろいろな考え方があるわけですが、この評定においては一番厳しい条件ですね。例えば、部材の、構造物の部材の一部が弱いのであれば、弱いところをより強く設定して、弱いということを設定して、弱いか弱くないか分からないという時であれば、弱いところに設定をして評価するというものですので、一般的には非常に厳しい結果が出ます。今回、静岡市がやった結果についても評定を得ましたが、同じように厳しい結果が出てきています。まず、清水庁舎の耐震評定結果についてご説明いたします。清水庁舎については、時刻歴応答解析をやっていました。この建築基準法においては、高さ 60m を超える構造物については、時刻歴応答解析という、動的解析と言っていますが、これをするように規定されています。清水庁舎は超高層ではないのですが、しっかりした検討をしようということで、この時刻歴応答解析をやっていました。時刻歴応答解析によって、どのくらい変形するかを見て安全性を確認するというものです。その結果ですが、前にご説明した通りですが、こちらの通り、これが 2024 年 3 月に発表したものですが、ここで実際の公表は 4 月でしたけれど、3 月に解析をした結果ですと、清水庁舎は地下 2 階から 9 階建て、そして屋上のペントハウス 1 階、2 階がありますけれども、それに対して南海トラフ地震の地震波を入れると、変形がこういうふうになります。こちらの横軸というのは、変形の大きさ、層間変形角と言っていますけれども、どのくらい、例えば、3 階と 4 階で角度に差が出るかと思っただけであればいいと思いますが、それになります。一般的には 100 分の 1 以下に抑えるということが事実上の標準になっています。いくつなら良いということはないんですけれども、一般的には 100 分の 1 に抑えるということになっていて、清水庁舎の場合は 1 階から 5 階までが目安となる 100 分の 1 を超えるということになります。ちょっと、時刻歴応答解析について、簡単にご説明いたしますけれども、建物はちょっとペラペラにしていますけれども、こういう建物はそちらから見て、もっと厚いので、建ててもらって、時刻歴応答解析というのは、ここに地震波が入ってきますので、ここの地盤のところで揺らすわけです。ここをこういうふうに揺らすと、建物はゆらゆら揺れますので、これでどのくらいの変形が出るかっていうのを調べるのが、この時刻歴応答解析ってなります。これが動的解析です。ここで動かして解析するので、動的解析って言います。もう一つは、静的解析っていう、これ後ほど出てきますけど、静的解析はどうやるかということ、下を揺らさないんです。こういう、ここに赤い線が入っていますけど、これは赤い線が地震力になります。地震力をここは止めたまま、地震力をこうかけてやると、これが歪みますので、どれだけ歪むかということ、どう

いう変形をするかというのを、力を加えてやるということですね。単純に言うと、こういうものに対して、こういう力を加えたときに、どういうふうにこれが変形するかというのを調べるのが静的解析です。地震動というのは、本当はこうなってくるので、こんなところに力が加わったりしないんですけども、これを先ほどの動的解析でやろうと思うと、細かいシミュレーションモデルを作っただけでやらないといけないので大変ですので、こういう静的解析モデルということで、こうやってやることになります。力はこんな形でかけますけども、階の下の方が重くなりますので、上の重力がかかっているんで、そこの方が大きな地震力が働くというような計算方法になっています。

これでやった結果がこうなりますが、今回、耐震評定というのをやりました。その専門家に、静岡市のやった解析方法についてどうでしょうかというのを判定していただいた結果、いろんな指摘があって、ちょっとモデルの一部を変えた方がいいんじゃないかというような話がありました。このモデルの一部を変えると、もうちょっと大きな変形が出るというような結果になっていますが、全体的に言うと、この100分の1を超えているのは、この1,2,3,4つですけど、これも同じような形ですので、ほとんど結果は同じということになります。

したがって、静岡市の解析は、全体としては適切ではないかと思われそうですが、結果を見ると、こちらの静岡市が解析した結果は1階から5階までが層間変形角の目安となる変形のレベルを超える形になります。こちらは、1階から7階まで、ここまでが超えるという形になりますので、これの方が厳しい結果になるということです。

何でこういう結果になるかというのと、細かいことは、ちょっと、そこに書いておきますけれども、ちょっとだけ説明しますと、静岡市のモデルというのは、こういう、例えば、柱があるとき、壁ですけど、実際は、壁があるときはこうやって一生懸命粘ってくれて耐えるというようなモデルで作っていますが、これも考慮するんですけども、こちらの評定委員会は、それよりも、ここに、ちょっと、こういうふうにバキッと折れるような状態、こういう状態をもっと考慮すべきだと。こういうふうに折れるような場合は、折れたら吸収しないわけですね。この場合は、かなり力が加わってもエネルギーを吸収してくれるので、頑張ってくれるわけです。ところが、こうやって頑張る前にボキッと折れてしまうような部材だと吸収しないので、結果が大きくなると、そのあたりの違いですので、この部材をどういうふうに見るかっていうのは、いろんな見解がありますけども、先ほど申しましたように、評定委員会の見方というのは非常に厳しい見方をしますので、やっぱりこういう弱いところをもっと入れた方がいいんじゃないかというのをやるとこうなります。ただ、結果的にはほとんど変わらないということになります。

もう一つ、先ほど申しました静的解析の方が出てまいります。これは第3次診断法と言っていますが、この診断法は日本建築防災協会の耐震診断基準同解説というところに、この診断法があって、これが1次、2次、3次と、こうあるわけですが、今回、第3次診断、より詳細な診断法である第3次診断法というのを、ちょっと上に行っていて、もうちょっと上。2020年3月にやりました。そのときに、もうちょっと下げていただいて、これ、各階で、この I_s 値というのを出します。この I_s 値というのは、耐震性がどのくらいあるかという目標値になりますけども、これが0.6を下回ると、いわゆる県の評価で言うとレベル3ということで、耐震性が乏しいという状態になります。計算をすると、この屋上のペントハウスの部分と、それから2階と4階で0.6を下回るという結果が出てきました。

したがって、先ほどの動的解析のところでも、やはり、この1階から5階ぐらいまでがまずいという状況でしたけども、こちらの静的解析でやっても、やはりここに弱点があるということで、これでは耐震性が乏しいということ、2024年3月に申しました。今回、この耐震評定をやったんですけども、それについてはこういう結果になっています。より厳しい状況で、2階から9階まで全部0.6以下になるということになります。これ、X方向という南北方向にですね。清水庁舎、南北東西ありますけど、南北方向でこういうふうに揺れるときに、こんな耐震性が厳しい状況になるという結果になっています。ただ、傾向としてはですね、見ていただくと、0.51から0.53というところで、静岡市の解析も0.575から0.612というところですので、大きく変わるわけではないということです。静岡市がやった結果も一つの妥当性はあると思いますけども、そのときに評定の委員会からいろいろ指摘を受けましたので、それを変えて今回はこちらを使った方がいいんじゃないかなと、静岡市としては判断しています。何で、これが変わったかということ、典型的なのはここですけども、一番最上階が静岡市の解析だと弱いということになっていましたが、こちらのやり直したものは、上は非常に強い状態になっています。強い状態なのに、なんでここが悪くなるのかということ、ここは弱いってことは、そこでエネルギーを吸収してくれるわけです。こっちの場合は、ここが強いという評価をしましたので、屋上階に壁があるんですけど、その壁の評価をしっかり入れると、ここが強いので頑張ってしまうので、上で頑張ると、どこかよそにエネルギーがいつってしまうので、それが2階から9階に、上が頑張った分、このエネルギーがいつってしまうので、ここが弱いという結果になります。

したがって、静岡、ごめんなさい、清水庁舎については、2階から9階までが耐震性が十分ではないという、静的解析の結果ではそうなります。先ほどの動的解析という時刻歴応答解析でも、やはり、この2階から7階までが悪いという

状況でしたので、傾向としては同じですので、清水庁舎については、このX方向に弱いということになります。ちなみに、X方向は南北方向で、Y方向が東西方向なんですけど、ちょっと上に上げてもらって、Y方向というのは、かなり値が良い状態になって、0.768とか、0.7、だいぶいいんですけども、まず清水庁舎の形がちょっと違って、こっちの南北方向の方が短くなっていますので、それが一つの問題。それから地震波が南北に入ってきますので、南北方向に揺れたときの方が、非常に厳しい状況になるというのは、解析をしなくても想像がつかますけども、解析結果もそういうふうになっているということになります。

次、お願いします。この辺は省略します。先ほどの説明ですね、はい、上に行ってください。今度は、結果として清水庁舎の耐震性能がどういうことかということですけども、繰り返しになりますので、全体としては静岡市の解析と評定は同じような状況ということですよ。もっと上げてください。第3次診断も先ほど申した通りですけども、一つさっき言い忘れたのは、清水庁舎の場合、先ほどのIs値が0.6未満でしたが、特定階が突出して値が低いという状況ではありません。みんな0.5から0.6ぐらいで悪い状態でした。これが、例えば、ある階だけが0.3で、他のところが0.6みたいになると、その0.3のところに力が集中しますから、その階が、ある種グシャッと潰れるような形になります。ですけども、この全体が悪い、同じような値で低いので、ある階がグシャッといくんじゃなくて、全体的に大きな損傷を受けるということですけども、倒壊をするとか、階が潰れるとかというようなことは起きないという結果が、これで出てきています。これを踏まえて、これから避難計画等を考えていく必要があるということになります。

次、お願いします。これで結果としてどうするかということですけども、もう一度、今の耐震評価を、どういう状況かを申しますと、昨年4月30日に公表した結果とちょっと違ってしますので、それを踏まえると、清水庁舎は庁舎の耐震性能は十分なものではないと。本震直後の避難行動は確保できるが、建物全体に変形が残る危険性があり、余震に対しては安全性が困難になる場所が発生する可能性があります。あくまでシミュレーションですから、必ず壊れるとか、そういうことはないわけですけども、シミュレーションだとか、耐震評価の結果を見ると、2階から9階あたりについては、かなり危険な状態になる可能性があるということですよ。ただし、繰り返しになりますけど、Is値ですね。0.6未満であるとまずいわけですけども、それについては極端な偏りが無いので、大規模地震発生時には本震で建物崩壊に至る危険性は低いと言えます。あるいは倒壊という言葉もありますけども、倒壊ということも起きないと。倒壊というのは倒れて壊れるということですから、倒れて壊れたり、ある部分がグシャッと

いくのでそのまま倒れて壊れるとか、あるいは 3 階部分が潰れるとか、そういったことはなくて、全体的に大きな損傷を受けるということです。

以上の事から、ここが非常に大事ですけども、清水庁舎においては、耐震補強が完了する前における限定的な期間について、早く耐震補強をやった方がいいんですけども、すぐにはできませんので、その間は庁内空間の安全対策を行った上で使用することが可能、庁内空間の安全対策というのは、物が倒れたときに怪我をすとか、そういうことがないようにするということを行った上で使用はできると。建物自身が潰れたりするわけではありませんので、使えるということです。ただし、余震により高層棟、先ほど言っていた 1 階から 9 階までである高層棟については、安全確保が困難になる場所が発生する可能性があるので、第一震が起きたら迅速な避難行動が必要となります。今は避難場所としては低層棟の 2 階から 3 階にスペースがありますので、低層棟の 2 階から 3 階に避難するということが考えられます。

清水庁舎は津波の浸水区域ですので、1 階への避難はできませんので、ただ、その高さから言うと 2 階に行けば、津波の高さよりも十分高いので、低層棟の 2 階から 3 階に避難をするということになります。

これから詳細な耐震補強の方法について、検討していくということになります。今日はその耐震補強方法について、議論ではなくて、清水庁舎は今こんな状態になっているので、避難計画をしっかりしないといけないということを、まず申し上げたいと思います。次、お願いします。

次は、これは、ちょっと上でいいです。もう一つ、清水庁舎の場合ですけども、津波避難ビルの指定解除というのを発表しましたけども、やはり今回のことで、耐震性能は I_s 値が 0.6 未満ですと、耐震ランクⅢということになります。耐震ランクⅢの場合は、これは津波避難ビルの指定要件に合いませんので、津波避難ビルではないということになりますので、今は津波避難ビルになっていますけど、それを解除します。津波避難ビルというのは、建物の外から避難してくるというのが津波避難ビルですので、庁外からの避難者を受け避難ビルの指定を、清水庁舎は解除するということです。

他にどうするかということですけども、近くに清水産業・情報プラザとか、そういったところがありますので、そこに避難いただくということになります。ちょっと上に、図面を見ていただいて、もうちょっと小さくなりますかね。今、清水庁舎はここですので、この辺りの方は地震・津波が起きたときは、ここに避難をするということになっていましたけども、これが使えないということなので、この近くにある清水産業・情報プラザとか、振興港運の立体駐車場だとか、これに避難ということになります。あとは、こういうところがありますけど、こういうところではなくて、ここが一番適切ではないかなと思います。

ただし、こちらが、海側、こちら巴川ですけど、こちらが海側になりますので、普通、津波の避難をするときに海側に逃げるっていうのは、すごく抵抗があります。あるいは川側に逃げるというのは非常に抵抗がありますので、果たしてここにおられる方々が、今までは清水庁舎に行くことにしていましたが、この海側のここに避難をするかという、ちょっとそれは躊躇する可能性がありますので、もう 1 回、この辺りで津波避難ビルがちゃんと確保できないかどうかという検討を、これは公共の建物はありませんので、民間事業者の方と相談をしながら、何か指定できるものはないかということ、これから考えていきたいと思えます。はい、次お願いします。

ちょっと長くなりましたので、あとは静岡庁舎について簡単にご説明をします。静岡庁舎についても、ちょっと上にいっていただいて、同じように解析をしました。静岡庁舎については、先ほどの 100 分の 1、これを下回っていると。ギリギリですけど、下回っているということですので、安定性、一定の津波、ごめんなさい、地震に対する安全性は確保できて、耐震性はあると思えますので、こちらは問題ないということになります。ただ、検討してみると、ごめんなさい、こちらが市がやったもの、これは評定委員会の評価を得ての結果ですけど、あまり変わりません。

で、全体としてはこうなんですけど、ちょっと部材のは、この中に入っていましたかね。もっとずっとこう、これですね。これは清水庁舎ですけど、例えば清水庁舎だと、こういうところに損傷が出るというのが、時刻歴の応答、動的解析で出てきますので、同じように静岡庁舎も全体としては安定性はあるんですけど、やはり、こういうところで損傷が出る可能性がありますので、こういうところの補強をどうするかということが大事になっています。

ただし、先ほどちょっと申しましたけども、じゃあ、これを補強したらいいんじゃないかというところでもなくて、ここを補強すると、ここが頑張ってしまうので、他のところに皺寄せが寄せるといふ事態も発生しますから、どういう、単純にここが損傷するから、ここを補強したらいいというものではないので、どういう補強方法がいいのかっていうのは、これから検討していく必要があります。

あとはいいですね。発表としては以上になります。ありがとうございました。

◆司会

はい。それでは、ただいまの発表につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思えます。はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

資料の 12 ページに、一番下の方に、今回の耐震評定結果も踏まえて、今年度末、今年度中に結論を公表する予定ですとあるんですけども、移転するにしても改修するにしても、いずれにしても莫大な費用がかかると思います。

現時点でどちらの方が現実的なものなのか、現時点の考えがあるかどうか。

そして、14 ページに市民説明会を開くとありますけれども、こちらに難波市長がご出席される予定はあるかどうか、併せて教えてください。

◆市長

はい、ありがとうございます。まず、市民説明会に出席する予定があるかどうかということですが、これは私ではなくて担当の部局、実際にこの評定委員会と色々な議論をした専門家がいますので、専門家の立場で、市の職員かつ専門家として、そこでしっかりとした説明をしてもらいたいと思っています。

それから清水庁舎をどうするかという問題ですけども、今年の 3 月までにその時点での結論を公表する予定っていうのは、その時点での予定ということですので、いつまでも引っ張ってもいけないんですが、今年の 3 月に最終的な補修方針の結論が出るかどうかはちょっとわかりません。

なぜかという、清水庁舎は耐震性の問題と、もう一つは施設の老朽化の問題があります。どちらがお金がかかるかというと、老朽化対策の方がお金がかかります。まだ精査してないですけど、ざっとした金額で言うと、老朽化対策に 100 億円。それで耐震化対策に 30 億円から 40 億円はかかるかもしれません。まだ精査してないんですけど。ということは何が問題かということ、耐震性のところも問題ですけども、清水庁舎の老朽化対策が 100 億円かかるので、それを踏まえて清水庁舎をどうする、全体としては例えば 130 億円かかりますと言ったときに、あの庁舎をこれから本当に 20 年使っていくべきなのか、それとも新しい方がいいのかっていう議論は必ず出てきます。そこをもっともっと精査していかないといけないので、その点では今年の 3 月までには、ちょっとその結論は出ない可能性は高い。どうするかということですね。3 月までに出るのは、仮に清水庁舎を改修したとすれば、いくらぐらいお金がかかるのかっていうのは出せると思いますので、その時点の発表は、そこまでに、おそらくなると思います。金額を踏まえて、じゃあどうしますかということですね。それは、その次の議論になります。

これは、なにせ金額が、ものすごい高額ですので、本当にそう簡単に決められる問題ではありませんので、もう一回、前回、移転か現地改修かということを議論しましたけども、その問題に立ち返って議論しないといけないような状態ではないかなと思います。

いずれにしても、まずは3月までに今の清水庁舎の耐震補強にいくらかかるか、それから老朽化対策にいくらかかるかというところは明らかにしていきたいと思っています。以上です。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい、その他いかがでしょうか。はい、朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

11 ページに、今後の方針については今お答えいただきましたけど、当面の、しのぎ方ですけど、11 ページにありますけど、以前は5階以上に避難となっていたのを変えるというふうになるんで、ここについても、もう少し説明いただければ。

◆市長

はい。図面ありますか。清水庁舎のですね、はい。清水庁舎ですね、高層棟とこちら低層棟になるんですけども、高層棟と低層棟って、縁が切れている状態になります。縁が切れているというのは、一体的に見えますけども、壊れるときは、こっちの壊れ方に低層棟はあんまり引っ張られない形になりますので、こちらについては安全性が保たれると思っています。

今、ここの2階のところは、今、何で使っていましたか。この2階のところを、ここを、これからオープンスペースにする予定です。今、2階にいるところは、こちらの、例えば、他のところの会議室とかに移ってもらう予定で、ここをそっくり、今開けようと思っています。それから3階お願いします。

3階もこういう会議室があって、ここも、もうすでに、ここは会議室ですので、オープンスペースになっていますので、ここに避難をしようということになります。

ここにふれあいホールがありますけども、このふれあいホールも耐震性、建物の耐震性は悪くないんですけども、ここは天井がちょっと弱いので、そこを使うというわけにはいかないんで、この2階のスペース、3階のこのスペースで、すね、2階と3階を合わせた形で今避難にしようと思っています。

こういうときに、市民の皆様がおられますので、例えば、ここですと、介護認定室とかこういうところに来ておられますので、こういうところにおられる市民の方を優先して、こういうところに、まずは地震が来たときに誘導していくと

ということになります。

あとは、職員をどこにということですが、以前は高層の5階、6階、7階はたぶん大丈夫ではないかということ、耐震性はある程度あるということでしたが、今回の結果ですと耐震性が厳しいので、5階から7階に避難するというんじゃなくて、ちょっと別の方法を考えないといけないと思っています。

これだけではちょっとスペースが足りませんので、どうするかというのは、これから考えるということになりますが、何とか場所は確保できるんじゃないかなと思っています。

◆朝日新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい、テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

先ほど、改修する老朽化と耐震化の概算費用みたいなのを出していただいたと思うんですけども、移転する場合に大体いくらぐらいかかるかっていうのも出てくるんですけど。

◆市長

これも、これからですね。移転のときに大事なのは、今の現位置改修の場合は庁舎全体の面積を改修しますので、20,000㎡、23,000㎡ありますので、23,000㎡、部分的に改修というわけにいかないの、建物全体の23,000㎡の建物が、健全性を保てるように改修しますので、結構、お金がかかります。

その一方で、いろんなところに、清水市内(注：清水区内)にも他にも、市の施設がありますので、そちらを活用しながらやっていると、仮にそこの機能を23,000㎡確保しないといけないわけじゃなくて、もっと狭い面積の建物でも十分スペースが取れるということになります。そうすると建物の面積が減りますので、費用としては、建築費用としては下がるわけです。ですので、そのあたりをこれから踏まえてどうするのかというのがポイントになります。

総括すると、現庁舎を改修する場合は23,000㎡の全改修になります。代替案としては、その中のうちのいろんなところを既存の施設のところに移ってもらって、そっちで対応することになります。ちょっとバラバラになりますけど。そうすると本当に必要な新しい庁舎を建てるとしたときに必要な面積が出てきますので、その面積で作ったときにいくらかかるかということが出てきます。

ですから、以前の 2023 年の 2 月に検討したときは全面移転だったと思いますけど、全面移転をするのであれば明らかに新庁舎を造ると高くつくと思います。ですけど、23,000 m²の面積を確保しながら移転すると、これは新築の方が明らかに高くなると思います。したがって、現地改修の方がいいと思いますけども、そうじゃなくて、もっと狭い、小さい面積の建物を新しく造るというのであれば、費用としては、結構、いわゆるトントンというか、同じぐらいの水準になる可能性があります。

(下線部の補足説明)

「全面移転の移転先として、清水駅東口エリアへの新築と静岡庁舎周辺の民間ビルの借り上げを想定していたが、全てを新築すると高くつくと思います。」

したがって、そのあたりを今の庁舎の機能の中の分散を、どうして、新庁舎を仮に建てるとすればいくらの面積が必要かということを出して、それは費用がいくらになるということを出すということですね。ちょっと長くなりましたが、A 案と B 案で、A 案は全面現地改修、B 案は分散させながら足りないものを新築で造ると。この A 案と B 案でどちらが安いかな。

それからもう一つは、ライフサイクルと言いますが、清水庁舎は老朽化していますので、改修をしたとしても、これから 40 年、50 年使えるわけではないわけですね。新しいものを造った場合は、これは 50 年、60 年使えるわけですから、そうすると 1 年ごとの費用というのを考えたら、どっちが安いかなという問題も出てきますので、そのあたりを総合的に評価をして、判断していかないといけないと思います。

したがって、かなり詳細な検討をしないと結論は出ない状況ですので、もう 1 回繰り返しますが、3 月までにはその結論は出せないということになります。ただ、現清水庁舎を改修したらいくらかかるかということについては、3 月までには発表したいと思っています。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。

◆司会

はい。発表案件についてのご質問。はい、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

今おっしゃった A 案と B 案、どちらが有力かっていうのは、今、時点で市長の中にあるんでしょうか。何か、聞いていると B 案が有力のようにも聞こえますが。

◆市長

いや、そんなことは、もう全くわからないですね、うん。そんなに極端には変わらないとは思いますが。130億が、この130億もぶれますけども、100億以上の改修費がかかることはおそらく間違いないと思います。清水庁舎ですね。現地改修した場合に100億以上の費用はかかることは間違いないだろうと思います。その上で新庁舎を造った場合に、これも今、建設費が高騰していますので、かなりの金額になりますので、ですから、それとの比較っていうふうになると、どちらかというのは、なかなか詳細な検討をしてみないとわからないと思います。仮に新築する部分の面積が非常に狭く確保できるのであれば、そっちも有力になりますし、やはり23,000㎡と言いながら20,000㎡は確保しないといけないというような話になると、明らかに現庁舎の改修の方が安いとなりますので、そういった利用の利便性まで含めて、いろいろ考えていかないといけない状況だと思います。

したがって、もう一度繰り返しますが、現地改修案と他の施設利用＋新築案ですね、そのどっちが有利になるかっていうのは、詳細な検討をしてみないとわからないという状況です。

◆司会

その他、はい、日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

今の質問との関連なんですが、分散させながらという、機能、たぶん清水庁舎の機能を分散させるというのは、具体的に、例えば静岡の庁舎に移動するのか、清水の近くの場所に、清水庁舎は、たぶんおそらく清水区民のためのものってのも多いと思うんですが、具体的にどのあたりに移転させて、新庁舎を設計するみたいなふうに考えているのでしょうか。

◆市長

基本はやっぱり清水庁舎の機能は、清水の、今ある清水庁舎の機能、入っている組織、部局については、なるべくその清水市(注：清水区)内で受け入れるものを探していくというのが基本だと思っています。

◆日経新聞

それっていうのは、清水区にある静岡市のいわゆる所有する施設の中に移転するという考えでよろしいでしょうか。

◆市長

それもありますし、例えばどこかのオフィスビルの一角を借りるというのも、それも意外に安いかもしれませんので、そういったものも選択肢になると思います。

◆日経新聞

すいません、あと一点。A案とB案を先ほど提示されており、値段の話が先ほどからよく出ていると思うんですが、5,60年、もっと静岡市が続けば、もっと長い間、清水には庁舎が必要だということで、値段だけを考えて、値段だけではないでしょうけど、値段をあまり重視して考えていく姿勢っていうのは逆に損して得取るじゃないですけど、そういう面も出てくるような気もしないではないと思うんですが、その点についてはいかがでしょうか。

◆市長

はい。値段というのがトータルの値段ですね。問題と先ほど申しましたように、ライフサイクルコスト、1年ごとにいくらかかるのかということも見ていかないといけないと思っていますので、基本はトータルのコストでは、全体の費用ではなくて、1年ごとにいくら、実質上、この庁舎の費用がかかるのかということで判断するのが大事だと思います。それから、2023年の2月に前市長のときに今の現位置改修というのを選んだのは、まちづくりの観点からして、清水駅の付近に新しい庁舎を造るのが望ましいけれども、当面は、まずは20年間は現位置の改修をした方がいいというのが結論でした。それは何が大事かということ、まちづくりの観点が入っているということですね。だから、これからの清水市、ごめんなさい、清水区のまちづくりを考えたときに、どの場所に庁舎機能を維持するのか、確保するのかというのをまちづくりの観点から重要ですので、判断するにあたってはですね、そこも考慮を入れた上で判断をするということになると思います。

これは地域の方々のいろんな思いもありますので、そう簡単に費用だけとか、そういうことだけで決められる問題ではありませんので、相当慎重な検討とそれから意見交換が必要になると考えています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他よろしいでしょうか。はい、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

今、少し言及あったように思うんですが、今、清水庁舎にある、市の教育委員会であったりとか、経済局が確か入っていると思うんですが、この二つは、庁舎を、清水庁舎をどういう形にするにせよ、清水に残すっていう方針は、そのままっていうことになるんでしょうか。

◆市長

まだ決めているわけではありませんが、非常に大きな部局ですので、それをこちらに移すだけの、つまり葵区、駿河区に移すだけの施設はありませんので、こちらで、今の教育委員会と経済局の話に限定すると、その二つをこちらの葵区であるとか、駿河区に移す可能性は、ほぼゼロだと思います。

◆NHK

ということなので、引き続き、おそらく清水で置いてっていうことになっていくということですか。

◆市長

はい。100%とは言いませんけど、ほぼ100%に近い形で、向こうで清水区で確保するというのが、あるべき姿だと思っています。

◆NHK

わかりました。

◆司会

その他、よろしいでしょうか。はい、日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

すいません、何度も。この診断方法のところで、新しく第3次診断においてっていうふうなところを、もう1回やり直したってところで、どちらにせよ、耐震的に少し弱い部分が見られる清水庁舎ですね、というふうなところがあったんですが、これはすごい単純な質問で申し訳ないですけど、1回目の地震が大きく、大きなものが起きたとして、南海トラフが起きたとして、それと同じくらいの余震が来る可能性っていうのはあると思うんですが、この評価の中には入って

いるんでしょうか。

◆市長

余震の大きさを想定しないといけないんですけど、その余震の大きさによってどう損傷するかっていうのは、本当に細かい解析をしようと思うと、もう1回解析しないといけないんですね。先ほどの解析ができないわけじゃないんですよ。やるんだったら動的解析モデルでないとできないので、動的な解析モデルでやりますけども、ただ動的解析モデルという、さっき言ったように、こういう部材が今まで頑張っていたわけです。こうやって頑張っていたわけですが、ポキッと折れた。そうするとこの部分はもう耐力がないわけです。そういうものをモデルの中に、もうここは全く抵抗力ありません、というもので入れてやって、それにもう1回地震動を入れてやると、全体としてどういう状態が起きるかっていうのは出てきます。

ただ、そこまでやるかということですね。というのは、どこがどのぐらい壊れるかというのは、あくまで計算上そうになっているだけなので、それが必ずしも正しいわけではないわけですね。正しいというのは、正確性があるわけではないわけですし、それから第2震がどの規模で来るのかっていうのも、これもわからないわけですね。南海トラフの地震で弱いということは出ていますので、南海トラフの地震の起き方がどう起きてくるのかもちょっとわからないので、南海トラフの地震もよく割れ方って言っていますが、どの範囲が1震目で割れて、第2震目といいますか、それに連れて次のところがどう割れていくのかっていうところで、割れるというのは滑るかということですけど、それによって地震動の大きさが違いますので、そこまで考えていくと、もうあくまで想定ばかりになってしまいますので、あんまりそういう想定はしないで、2震では、もうもたないということで、もたないというのは、大破して大きな損傷を受けるということを前提に考えるのがいいんじゃないかなと思っています。

◆日経新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

これまでのご説明で、もしかしたらあったのかもしれないんですが、改めて

ちょっとお伺いさせてください。資料の2ページに、2023年4月の市長就任に伴って、移転建て替えと現位置建て替えと現地改修の整備方針の検討経緯を改めて精査するとあるんですが、先ほどのご説明だと、移転建て替えと現位置改修が今、現時点で選択肢として残されているという理解でよろしいのでしょうか。

◆市長

はい。いや、現地建て替えもないわけではないです。現位置建て替えってというのは、今駐車場の部分がありますので、駐車場の部分に建て替えるという方法はありませんけれども、このときの結論で言うと、2023年の2月の結論で言うと、建て替えるんだったら清水駅の付近がいいですよっていうことになっていますので、そのときの検討で言うと、現位置での建て替えっていうのではないという結論になっています。

ただ、今の時点でもう1回検討するときに、清水駅にいい場所があるかどうかというのを、まだ十分議論、検討できていませんので、ですから現位置での建て替えというのも案としてはあり得ると思っています。

◆静岡新聞

そうすると、先ほどのご説明を踏まえると、選択肢としては、この三つが残されているんだけど、難波さんの頭の中では、先ほどの二つの方がより有力であるという理解でいいのでしょうか。

◆市長

そうですね、はい。

◆静岡新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい。その他、よろしいでしょうか。はい、朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

確認なんですけど、現位置改修っていうのもあり、2023年の2月のときのように、いずれは老朽化っていう問題なんで、いずれはどこかに建て替えるけれど、当面は現位置改修という、そういう認識で…。

◆市長

はい。2023年の2月の結論は、建て替えるのであれば、建て替えた方がいいということですね、基本は。改修をするよりも、ライフサイクルコスト1年ごとに庁舎の費用として、いくらかかるかという点で計算をすると、清水駅の付近に新築をした方が安いというのが結論になっています。ですけれども、場所がないので、そこは桜ヶ丘病院が移転しましたので、場所がないので、現位置改修を選びましょうと。

ただし、将来にわたってまちづくりという面を見ると、やはり清水駅付近に移転をした方がいいので、今の現清水庁舎を、さらに40年、50年持つような新築に近いような形で改修するんじゃないかと、20年ぐらいもつような改修をすればいいんじゃないかと。その方がコスト下がりますので。その上で20年間の間に清水駅のところに何かいいところがあれば、そっちに移転をしましょうという考えだったと思います。それは、そのときの考えです。

◆朝日新聞

さっき選択肢にあった現位置改修っていうのは、20年とかではなくって、もっと長い間を考えて改修するっていう案っていう…。

◆市長

そうですね。現位置改修というのが…、現地建て替えですね、現地建て替えというのは、案の中ではほぼ消えているという状況です。それはなぜかという、新築するんだったら、まちづくりの観点から清水駅の方がいいというのが、一番最初の答えにありますので、何が一番上にあるかという、新築するのであれば、まちづくりの観点から清水駅の付近に庁舎を作った方がいいというのが前提にあります。ですけれども、だから現位置、庁舎の位置での改修案というのは、もうその時点でないということです。ごめんなさい、現位置での建て替え案はないと。現位置での新築をするよりも、新築をするんだったら清水駅付近に新築した方がいいので、したがって、今の庁舎のところで、新築をするという案は、もうその時点でないということになります。

◆朝日新聞

すいません、何度も。その時点でっていうのは、今の、今の…

◆市長

いやいや、2023年の、もう一度、2023年2月の考え方を言うと、庁舎を新しく造るのであれば、清水駅のところの方がいいと。それでコストを考えても、先

ほどのライフサイクルコストを考えても新築をした方が安いということですね。ですけど、だから、もし、新築をするのであれば、清水駅の付近に新築しましょうというのが案に出てきます。それが一番有力案ですね。ですけども、場所がないので、そこにやることができませんと。したがって、将来はそこに持っていくことを頭に置いた上で、現庁舎を改修しましょうと。今、申しました、今の現位置で新築してしまうと、将来清水駅に新築する案はなくなっちゃうわけですよ。だから、現位置で新築するという案は、そこでないということになります。

◆朝日新聞

質問の仕方が悪くて申し訳ありません。先ほどから議論になっていた A の現地改修案と B の他の施設利用+新築って言っていた、その A の現地改修案っていうのは、当面はっていう意味じゃなくって、23年2月の段階の、20年とかいうのより、もっと長くを見据えたものですかっていうことを聞いているんですが。

◆市長

ああ、わかりました、すいません。

それはわかりません。これから検討してみて、どうするかということですけど、ただ、おそらくですね、20年程度の改修案というのは出てきません。私の今の感じですけど。それなぜかという、今、耐震補強よりも、今の老朽化対策の方がものすごいお金がかかるんですね。本当にあんまり言うとその金額を何かわかったかのように言われるので、ちょっと気をつけて言わないといけないんですけど、本当にザクッと概算だと思ってください。例えばですけど、耐震補強は30億かかります。もう一つは、そこで使おうと思ったら、今もう老朽化をしていて空調であるとか、電気系がもうボロボロになっているので、全面やり替えしないといけません。清水庁舎は。そっちにおそらく100億円ぐらいかかります。そうすると20年、こっこの100億をかけて改修するという事は、これは清水庁舎を30年から40年少なくとも使うつもりで改修をしないと意味ないわけですよ。

ですから、耐震補強も20年ぐらいの補強というのはないわけで、やるのであれば40年間もつような耐震補強をするというのが答えになると思います。

◆朝日

わかりました。ありがとうございました。

◆司会

では、発表案件については、以上ということよろしいでしょうか。

◆市長

はい、ありがとうございます。

◆司会

では、幹事社質問に移りたいと思います。日経新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆日経新聞

ちょっと重たいテーマの後で、軽いテーマでいきたいと思います。幹事社質問は新年の抱負と、25年、今ある社会課題の中で重視していきたい施策について伺います。よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。今ちょうど来年度予算をどうするかということで、予算の前に政策、施策、取組があるわけですが、その議論をいっぱいしています。いきなり予算をこうしましょうというんじゃなくて、どういう政策、どういう施策、取組をやっていたらいいのかっていうのを議論しているわけですが、本当に、ありとあらゆる分野でやっていかないといけないことが、いっぱいできてきています。

今までの延長上にはないことを、みんな変えていかないといけない状況にあります。建物でいうと、今の老朽化問題、ずっと手がつけられていけませんので、これも変えていかないといけないわけですね。ですから、単純に言うと、清水庁舎の問題、このLED化が100億かかります。特別教室のエアコンが60億かかります。学校のトイレの洋式化が90億かかります。流通セ…。ごめんなさい、卸売市場を改修すると250億かかります、みたいな話になっているわけですね。それがもう、全然手がついていないわけで、エアコンなんかは手をつけましたけど、ものすごい金額がかかるわけで、それをどうするかという問題がもう一つあります。

それから防災については、これも南海トラフ地震の切迫性というのは、どんどん、どんどん近づいてくるわけですので、これへの対象というのは、もう待ったなしの状況で、どんなに遅くても10年以内には相当のレベルの防災強化をしていかないといけないというところですので、これも非常にお金がかかります。

それから、子育て・教育の問題ですが、やはり、いろいろと今までの教育ではなくて、その枠にはまらない教育というのは非常に求められている状況

ですね。だから、今までのように、みんな同じように教室に来て、前を向いて同じように勉強するというようなこともできなくなってきて、そういうところに合わない子ども達が、違う学び方っていう、多様な学び方を学んでいかないといけない。そういう対応も必要になってきますし、あるいは子どもの貧困問題だとか、あるいはネグレクトの問題だとか、いろんなところがあって、子どもの、どこに行くかっていうところですね、そういうところも確保していかないといけない。これも大変な費用がかかる状況にあります。

もちろん、それ以外の福祉もかかりますし、医療もかかるっていう、ありとあらゆる分野でいろんな取り組みをしていかないといけない。

もう一つは、やはり静岡市の人口減少の一番大きな問題というのは、やっぱり経済の活性化の部分に遅れをとっているんで、そこがやっぱり静岡県平均よりも静岡市が人口減少率が高いという原因の一つだと思っていますので、経済を活性化することが大事。経済を活性化して年収を増やし、手取りを増やして、そして子どもを産み育てやすい社会にするっていうのが大事だと思います。給付も大事ですけども、やはり年収を増やすというのは、非常に大きな子育て・教育対策、子育て対策だと思いますので、それもやっていかないといけないということで、長くなりましたが、ありとあらゆることをやっていかないといけないので、これを力を入れていきたいというのはなくて、全ての分野でやっていかないといけないと思っています。

抱負ということですけど、とにかく今年は動かすということです。検討するとか、何とかっていうのは、2年間、もうすぐ私も市長になって2年近くなりますので、いろんな検討はしてきました。どこにどんな問題があるかというのは、大体わかってきて、あとは何をしていかないといけないかというのも、大体見えてきました。問題は、それを具体的に、お題目を言うんではなくて、具体的にその対策を動かしていかないといけないですね。よく政策執行と言っていますが、政策立案は大事ですけども、立案していても、執行を、実行が伴わないと何ものなりませんので、この執行の部分、実行の部分ですね、実際に物事を動かしていくっていうのが大事になってきますので、今年は、今までいろいろ検討してきた結果を具体的に動かして行って、結果を一つひとつ出していくということが非常に大事だと思っています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい。では、幹事社質問に関連したご質問があれば、お受けをしたいと思います

が、いかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

関連して、難波市長、先日の職員、幹部職員に対する新年の挨拶の中で、行動を変えていこうというふうに訴えられていました。難波さんが、もし今年変えていきたい行動などがあれば、教えてください。なければ結構です。

◆市長

変えるのは、もうとにかく動くことです。結果を出すというところですね。いろんな、こんなところに課題がありますとか、解説をしても何にもなりませんので、問題は、どこに問題があるかっていうことを、よく言うんですけど、解明、解説、解決と言いますが、どこに問題があるかを解明して、よくあるのは、ここに問題がありますって解説するわけですよ。それはなるほどと思いますけど、解説してもらっても何もならないわけですね。問題は解決しないといけないですね。一番、解説のところまではある種、簡単なんです。こんな状況になっているから、こんなことをしていかないといけないですよっていうところまで解説するのは簡単ですけど、解決、実際に解決していかないといけないわけですよ。解決していくためには、実際に物事を動かさないといけないわけですよ。だから、とにかく今年は行動変容というのは、物を実際に動かすということですよ。解明だとか、そういうことをするのではなくて、研究会をずっとやってきましたので、研究会で大体何が問題かというのはわかってきたので、これからは研究ではなくて、研究も続けないといけないですけど、研究じゃなくて、あるいは解明ではなくて、解明した結果をもとに、実際に解決のために動くということ、具体的に動くということですよ。それが一番大事だと思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい。幹事社質問に関連したご質問よろしいでしょうか。

では、その他にご質問があれば、お受けをしたいと思います。その他のご質問いかがでしょうか。先に、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

何度もすいません。リニア問題に関して、3問ほど伺います。まず一つ目が、

今年のリニア問題の展望を教えてください。

◆市長

一つひとつですね、はい。

◆静岡朝日テレビ

じゃあ、まとめて聞きます。2問目がですね、鈴木知事が流域市町の合意が必要であることや、今後の議論のスケジュールなどから、年内に解決するのは難しいとの認識を示されました。これについて、島田市の染谷市長が見通しが見つからないことは課題だというようなことを述べられました。

併せて、難波市長の今年のリニア問題の、今年の見通しはどうなりそうか、お願いいたします。

◆市長

はい、わかりました。まず、今、リニアの問題について静岡市の検討状況ですけども、協議会の中で、盛土の問題ですね、ツバクロ盛土の問題をずいぶん議論してきました。もう一つは生物多様性への影響を議論してきました。

ツバクロ盛土については、方向性がほぼ確定してきましたので、年度の初め、早いうちに次の協議会を開いて、ツバクロ盛土については最終的な結論を出したいと思っています。

もう一つの生物多様性、生態系への影響ですけども、これについては、影響の回避、低減をしっかりやることを前提に、どうしても残る影響に対して、代償措置をやっていきたいと思います。代償措置の考え方はこういうことですので、これは、ほぼ明らかになりましたので、そういった面で解決の方向性といいますか、は出ていると思っています。

問題は、具体的に代償措置をどう採るのかというところがポイントだと思いますので、代償措置については、植物と水生生物。植物については、一般的な植物と特に希少な植物についてどうするかという問題ですね。それから、水生生物については、とりわけ、具体的にはヤマトイワナですけど、ヤマトイワナへの対策をどうするかというのがポイントになると思います。

そうやって、論点と言いますか、何をやっていけないといけないのかということは、もう見えてきていますので、市の協議会の中で、そこについて具体的な検討を進めていきたいと思っています。

個人的には、それほど時間がかかるとは考えていません。ただし、現況の調査をやったりしっかりまだできていませんので、4月はちょっと早いですが、5月の

雪解けの後には、やはり雪解けの後から夏にかけて、しっかり現地調査をして、希少な生物が実際にどこにいる生息しているのかというのを調べた上で、具体的な代償措置を考えていくということが必要だと思っています。

それをやれば、追加的な調査をやるとかっていうのは、それは、やりながら調査をするということもあり得ますので、方向性はしっかり検討すれば、静岡市としては、年内には出せるのではないかなと、私は思っています。

ただ、やってみないと分からないので、希少な生物の存在がどうで、それをどう代償措置をするかというのは、非常に困難性が高い問題ですので、やってみないと分からないところはありますけれども、それほど時間をかけてやらないといけないわけではないと思います。早く結論は出せるのではないかなと思っています。

それから、鈴木知事の年内は難しいというお話でしたけども、確かに静岡県の場合は、もう一つ、中下流域の水への影響というのがありますので、ただ、これについての方向性は、ほぼ出ていると思いますので、あまりこの問題が論点になることはないと思います。

したがって、先ほどの盛土の問題ですね、ツバクロはもう終わりますので、藤島の要対策土の対策をどうするのかという問題が残りますので、これもそう長くかかる話じゃないと思います。調査がいるわけでもありませんので。そうすると生物多様性ですね。生物多様性は県の専門部会は、いろんな先生方がいらっしゃいますので、そこで議論が進めていければ、一定の時間があれば、解決は、方向性は出せると思いますけども、ただ、鈴木知事がおっしゃっているように、今の時点で、いつまでにできるかというのが見通せるかという、それは見通せないんじゃないかなと、県の状況を見るとですね。市の場合はかなり検討進んできていますので、考え方もまとまっていますので、あとはどういう代償措置を採るかというところを決めればよいところですので、市の場合は、もうちょっと早く解決結論が出るとは思いますけど、県の場合は、やはり生物多様性の問題については、いろんな意見がおそらく出てくるとは思いますので、一定の時間はかかると思います。

見通しを明らかにしてほしいということなんですけど、おっしゃることは非常によくわかって、見通しは明らかにした方がいいと思いますけど、先ほど申しましたように、非常に生物多様性については困難性が高いので、鈴木知事がいつまでできますってというようなことを、こうこうこういう流れで、いつまでにできますってことを言えるような状況ではないと思います。ただし、盛土問題とか、流量への影響、中下流域の流量への影響というのは、それはもう、もっと早く結論は出せると思います。

◆静岡朝日テレビ

それで言いますと、鈴木知事は知事に就任してからリニア問題に対しては、スピード感をもって取り組むというふうには発言されていました。岸田前総理と面会したりですとか、JR 東海の幹部と会ったりしています。難波市長は鈴木知事のリニア問題に対するスピード感については、どのように評価されますでしょうか。また、併せて JR 東海が昨日、先進坑の掘削を再開しました。今後、県境手前まで掘削を進める予定だということです。併せて、ご所感もお願いいたします。

◆市長

はい。鈴木知事のスピード感については、相当スピード感というより、検討のスピードは上がっていると思っています。ただ、中身は非常に複雑で困難性が高いので、スピード感を持って取り組んでも、いつまでにできますというような話ではないと思いますので、もう 1 回繰り返しますけど、スピードはかなり加速をされているけれども、そうだからといって、すぐに解決するほどの簡単な問題ではない。特に、県の考え方としては、そんなにすぐにできる問題ではないので、慎重な検討をされていると思いますので、適切な検討をされているんじゃないかなと思います。

それから、先進坑については、これから県境に向かっていくということですが、やはり県境に近づいていくと、断面が大きいので、静岡側の水がどう引っ張られていくのかというのは前々から言われているところですが、その問題が全くないわけではありません。

しかし、もうすでに長尺先進ボーリングがされて、その地質の状態は、ほぼわかっていて、掘ると水がどのくらい出るかっていうのは、ほぼわかっていると思います。もちろん大きな断面でやったときには、複雑性があるので、突然突発湧水がある可能性はあると思いますけども、基本的にはそれほど大きな水は出てこないんじゃないかなと思います。

したがって、慎重に掘削をしながら情報開示をして、そして、もし突発的な、要は想定以上のものが出たらすぐ止めて対処するというをやれば、中下流域の水問題に対して大きな影響が出るようなことはないと思いますので、慎重、もう一度結論を申しますと、慎重に進める、ですけれども、データは開示をしていただいて、もし大きな変調があれば、すぐに止めて対策を考えるということが大事ではないかなと思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。先に、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

清水港の日の出地区に整備を計画している海洋文化施設について伺います。市が 169 億円という、大変大きな額をかけて整備するという事なんですが、なかなか進捗状況が見えてきません。まず、着工時期について伺います。市は、昨年 2 月に杭の長さが足りず、10 ヶ月程度遅れることが確実だと発表していましたが、これはもう着工したのでしょうか。

◆市長

はい。まだしていませんね。着工はしてなくて、今、設計をまだ進めている段階です。設計段階でいろんな問題がありますので、今、詰めていく状況ですけども、設計も最終段階にきていますので、一定の設計といえますか、当初想定していた設計は、その時点で終わると思います。

問題は、費用の問題ですね。必ず設計変更が必要になりますので、設計変更したときに費用が少なくなる場合はほとんどなくて、想定外の事態が発生するので、それに対処するという事で、想定外という元々予定していなかった費用が発生するというのがしばしばあるので、通常、詳細設計をしていくと、費用は上がります。実際に、今、費用は上がってきています。さらに想定外の事項が出てくるという問題と、建設コスト自身が単価が上がってきていますので、したがって、その費用も上がってきています。

したがって、全体として元々予定をした金額よりも、建設費が高くなるという状況ですので、その高くなるという状況を踏まえてどうするか、今やっている設計というのは、今までの設計通り、考え方、今までの仕様なりでやってきて積み上げてきて、金額は出てきますけども、その金額で本当にやれるのかどうかというところの精査というのは、これから出てくると思っています。

ただし、時間をかけてやる問題ではありませんので、設計が出てきた段階で、どうするかというところですね。それを決めるという状態になると思います。どうするかというのは、やめるという話じゃなくて、その費用が高騰してきたことに対して、どう対処するのかというところを決めていかないといけない段階にあると思います。

◆中日新聞

高騰というのは、どのくらい、今 169 億円ですけども、市の負担が。30 億、40 億増えるという…

◆市長

まだ詰められていないところが残っています。最終設計段階になっていて、ちょっと細かいところは申し上げられませんが、まだ金額が確定できない部分があるところがありますので、それが確定するまでは、金額がどのくらいまで上がるかというのは、申し上げられないという状況です。

◆中日新聞

開業時期についてなんですけども、予定していた、現時点で 2026 年 4 月の開業から最大 1 年程度遅れる見込みと、すでに発表されていますけど、これはさらに遅れる可能性もあるんでしょうか。

◆市長

可能性はあります。ただ、今の設計、具体的に言うと、今年の 3 月末までには設計を終えて、最終的な、それを踏まえてどうするかというのを決める段階にありますので、その時点で、その後、コストが上がった分の対処方法を考えた上で、最終的な着工までいくということになりますので、具体的に言うと費用負担の問題があるわけですね。いくらか上がった分、仮に 10 億なら 10 億上がったときに、それを市が負担するのか、SPC という特別目的会社が負担するのかというところの協議も当然出てくるわけで、そういったことを踏まえて着工することになりますので、3 月に設計が出てきて、4 月から着工できるという状況にはないと思います。

したがって、着工はもう少し遅れる。そうすると、供用、完成時期も 1 年ではなくて、もう少し遅れるような状況ではないかと考えています。ただし、まだ最終設計が出てきていないので、これもどのくらい遅れるかをいえる状況にないというところなんですけども、3 月末にはそのあたりについては、決めていかないとはいけないと思っています。

◆中日新聞

海洋文化施設と東海大学さんとの関わりについて伺います。当初は東海大が飼育や展示のノウハウを提供するというので進んでいましたけど、その役割分担に変更はないんでしょうか。

◆市長

そのところが、展示やそのノウハウの提供ではなくて、もう少し深いところがあつたと思います。例えば、魚種の選定であるとか、どういう設備にするとか、

維持管理、水族ですね。だから、生物をどうやって飼育するかというあたりについて、それについては東海大が相当関わっていくという状況だったと、当初はですけれども。その段階で東海大学と、この SPC の関係が、いろんな議論がされていて、なかなか合意に至っていません。その結果、やはり東海大学としては積極的に関わっていきたいというご意向だと思いますけれども、いつまでもその中で SPC といろんな議論をしても話が進まないの、やはりそこは少し東海大学が引いた形で、展示内容について助言をすると。その生物の飼育、バックヤードの生物の飼育なんかがあるわけですけど、そういったところには関わらなくて、展示内容について助言をするという方向で今決まっていると思います。そのあたり、当初の東海大学の関わりとは、現時点では変わってきていると思います。

◆中日新聞

今お話に出た東海大さんが所有運営されている海洋科学博物館ですね、水族館。これが当初の計画だとバックヤード機能を担うということでしたけど、そこも変更ということですね。

◆市長

それはないということで、ほぼ決まっていると思います。

◆中日新聞

ありがとうございます。最後なんですけど、この海洋科学博物館なんですけども、老朽化に伴って昨年 10 月に一般公開を終了しました。この水族館、1970 年に開館で、昭和レトロの大型水槽だったり、クマノミの飼育だったり、子どもたちにも人気がある三保半島のにぎわいの拠点となっていました。では、そんな中で先月 12 月の下旬に東海大の OB の方だったり、館長経験者、地元住民らがこの水族館を残してほしい、営業を再開してほしいということで、署名活動を開始しました。市長は、この水族館、海洋科学博物館について、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

◆市長

はい。私も何度もお邪魔をして楽しませていただきましたけども、本当に素晴らしい施設で、大型水槽もあって、大学の一研究施設というよりも、本当に素晴らしい水族、ちょっと言い方悪いかもしれませんが、水族館としても素晴らしいものだったと思います。

できれば残していただきたいというのが、私もそう思いますけれども、やはり

水族館といいますか、水生生物の飼育施設というのは、ものすごいお金がかかりますので、したがって、東海大学はその負担を続けていくかどうかというところですね。つまり、研究機能としての存続という面はやれる、当然必要だと思いますけども、外への見せる施設として、東海大学がやれる、そこは必ずほぼ赤字になるわけで、赤字になってまで施設を一般公開する必要があるのかどうかということ、東海大学はお考えだったんじゃないかなと思います。

その上で東海大学としてご判断されたので、それは、これ経営、東海道の経営に関することですので、それは一市民と、私も一市民ですので、一市民の思いとしては、あれは残してほしいと思いますし、残してほしいという署名活動をしている皆さんの活動にも共感をしますけれども、ただ、そうはいえ、最終判断するのは東海大ですので、東海大学の判断を待つしかないと思っています。

◆中日新聞

ありがとうございました。

◆司会

はい。静岡第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

先ほど、今年動かす1年とお話ありましたが、注目されている事業として、アリーナ事業が大きな動きを迎える今年かと思います。今年、長く議論されてきたアリーナ事業において、今年はどんな位置づけとなる1年になるのかというところと、年度末までの大まかなスケジュールを伺いたいです。

◆市長

はい。1月24日に地元の皆様とまた話し合いをする、意見交換をする予定にしています。そこで、いろんなご意見をいただくとありますが、あれはアリーナの問題と共に東静岡周辺のまちづくりの問題ですね、これも非常に大事になってきますので、それについて意見交換をさせていただいて、その結果も踏まえて、アリーナを実施するかしないかという最終結論を出したいと思っています。これは来年度予算にも関わることですので、やるとなれば予算計上するし、やらないとなれば予算計上しませんので、そういった点で、年内、ごめんなさい、年度内3月に判断ということではなくて、予算書の中で、やるかやらないかっていうことは出てくる、明らかにしたいと思っています。

ただし、議会でも質問がありましたが、市が単独で実施するわけではありませんので、あくまでBTプラスコンセッションという形で、民間事業者の参画を

得て実施する事業ですので、民間事業者の参画がない場合は実施しないということは、これは決めていますので、そういった方向でこれから進んでいきたいと思っています。

さっきの民間事業者が出るかどうかはちょっと先の話ですので、まずは予算計上するかどうかについては、もう1月、2月の議会には明確にして出したいと思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。24日、金曜日かと思うんですけども、報道公開はする予定ですか、今のところ。

◆市長

冒頭だけでしたか、冒頭もないかもしれません。14ですね。公開は？すみません。中身については、中で実際に意見交換しているところは、公開なしで、それで、後で、事前に入るところと、それから会議が終わった後、どういう話だったかということをご説明したいと思っています。

◆静岡第一テレビ

14ですね。

◆市長

ごめんなさい、1月14日です。

◆静岡第一テレビ

来週の火曜日…。

◆市長

ごめんなさい、間違えました。

◆静岡第一テレビ

長くなってすみません。あともう一点なんですけども、まもなく静岡市歴史博物館が2周年を迎えるかと思えます。入館者数の目標値を設定し直したりといった経緯もあったかと思いますが、現状の博物館のあり方を、ちょっと、どう捉えているのかということと、今後こういった運営をしていくのがベストかという、ビジョンがあれば教えていただきたいです。

◆市長

はい。まず博物館については、当初目標が課題であったというのは、これは間違いないところだと思いますので、過大な設定をしてやるっていうのは、それを続けていくというのは適切ではないと思いますので、適切な入館目標を決めて、そして、どういう展示をしていくのかっていう、地に足のついた運営をしていく必要があると思っています。

ただ、このところ、展示なり、企画展を見ていますと、入場者、増えているんじゃないかなと思いますので、私自身も行って見て、あんまり言うとなんか面白くないんですけど、最初の頃はあまり面白くなかったんですけど、最近行ってみると非常に面白くなってきているので、だいぶ変わってきているなという気がしていますので、今、新しい体制でいろいろやっていただいていますので、入場者は増えていくんじゃないかなと期待しています。

やはり場所が、場所で、素晴らしい場所にあって、そして、まさに静岡らしさを出していただく大事な施設ですので、入館者が増えるという目標とともに、やはり、なるほど静岡の歴史はこういうことかというのわかるような展示をしっかりしていただいて、あとは地域の子どもたちにも見てもらって、共同意識といいますか、地域を愛する気持ちとか、そういったことも高めることが必要ではないかなと思っています。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございます。オープン直後しか行けていなくて申し訳ないんですけども、最近何か面白くなってきた点としては、簡潔にどういったところが変化したと思いますかね。

◆市長

見ていただくのが、人それぞれですよ、何が面白いと感じるか、エンタメがあると面白いという感じもあれば、何か知的好奇心をそられるので面白いという人もいますし、深く歴史に探訪していくのが面白いという方もいらっしゃるんで、いろんな面白さがあると思いますけども、今行くと、へえって、こんなことがあったのかっていう面白さが出てきていると思いますので、やっぱり静岡いいものあるよねっていう感じが出てきているので、楽しいのが一番じゃないかなと。あんまり勉強するんじゃないかって言うと怒るかもしれませんが、ミュージアムだから勉強しないといけないかもしれませんが、勉強、勉強というよりも、やっぱり楽しみながら学ぶのが大事ですので、そういう展示になればいいかなと思っていますね。ただ、私がやるわけじゃありませんので、皆さんそういう思いで努力されていると思います。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい。ご質問、その他よろしいでしょうか。以上ということでよろしいでしょうか。では、本日の定例記者会見を終わらせていただきます。

◆市長

はい、ありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は、1月24日の金曜日、11時からの予定となります。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。